

マタイ 7 : 13-29

「ふたつの道、ふたつの実、ふたつの土台」

7:13 狭い門から入りなさい。滅びに至る門は大きく、その道は広いからです。そして、そこから入って行く者が多いのです。

7:14 いのちに至る門は小さく、その道は狭く、それを見いだす者はまれです。

7:15 にせ預言者たちに気をつけなさい。彼らは羊のなりをしてやって来るが、うちは貪欲な狼です。

7:16 あなたがたは、実によって彼らを見分けることができます。ぶどうは、いばらからは取れないし、いちじくは、あざみから取れるわけがないでしょう。

7:17 同様に、良い木はみな良い実を結ぶが、悪い木は悪い実を結びます。

7:18 良い木が悪い実をならせることはできないし、また、悪い木が良い実をならせることもできません。

7:19 良い実を結ばない木は、みな切り倒されて、火に投げ込まれます。

7:20 こういうわけで、あなたがたは、実によって彼らを見分けることができます。

7:21 わたしに向かって、『主よ、主よ』と言う者がみな天の御国に入るのではなく、天におられるわたしの父のみこころを行う者が入るのです。

7:22 その日には、大ぜいの者がわたしに言うでしょう。『主よ、主よ。私たちはあなたの名によって預言をし、あなたの名によって悪霊を追い出し、あなたの名によって奇蹟をたくさん行ったではありませんか。』

7:23 しかし、その時、わたしは彼らにこう宣告します。『わたしはあなたがたを全然知らない。不法をなす者ども。わたしから離れて行け。』

7:24 だから、わたしのこれらのことばを聞いてそれを行う者はみな、岩の上に自分の家を建てた賢い人に比べることができます。

7:25 雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけたが、それでも倒れませんでした。岩の上に建てられていたからです。

7:26 また、わたしのこれらのことばを聞いてそれを行わない者はみな、砂の上に自分の家を建てた愚かな人に比べることができます。

7:27 雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけると、倒れてしまいました。しかもそれはひどい倒れ方でした。」

7:28 イエスがこれらのことばを語り終えられると、群衆はその教えに驚いた。

7:29 というのは、イエスが、律法学者たちのようではなく、権威ある者のように教えられたからである。

はじめに

今日で、マタイの福音書に登場する五大説教の最初の説教を学び終えます。

今日の箇所は、5章1節から始まったイエスの長い説教の総括、あるいは結びの部分です。

イエスのご自身の教えにどう応答するかは各人の選択であると明言されます。

イエスの教えを信じるのも信じないのもその人次第です。

私たちは聖書の神によって、選択の自由をもつ生き物として造られました。

私たちはロボットではありませんが、羊のように行動してしまうことがあります。

神が最初の人アダムを造られた時、選択の自由をお与えになりました。

残念ながらアダムは、神のみことばの真理ではなくサタンのうそを信じるほうを選んでしまいました。

サタンのうそは、釣竿から垂れ下がるエサのようなものです。

おいしそうだからこそ魚は食いつくのです。けれども、魚は食いついた途端、釣針にも食いついてしまったことに気づき、釣られてしまいます。

サタンも同じです。私たちの気を引きそうなもので誘惑してきます。そしてサタンの奴隷にされてしまうのです。

私たちが下す人生の決断には必然的にその結果がついてまわります。

たとえば、ダイソーなどの100円ショップで買い物をすることにしたとします。けれどもすぐに壊れて使えなくなりました。安物を買うという選択が良くなかったのかもしれませんが、失ったのは100円なので大した損失ではありません。

けれども、永遠のいのち、永遠の死といったもっと大切な決断については、しっかりと正しい選択をしなくてはなりません。

その決断が重大な結果をもたらすからです。

イエスはご自身の説教の総括部分で、人生にふたつの道があると指摘なさいます。

そのふたつの道はまったく違った終着点へとつながっています。

イエスはまた、人の生き方にあらわれた霊の実を見れば、その人がどのような選択をしてきたかがわかるとおっしゃいます。

24-27節でイエスは、群衆がイエスの教えをちゃんと理解できるようにたとえを挙げられます。

岩の上に建てられた家と砂の上に建てられた家を比較し、私たちの選択について教えられます。

今日は、イエスの教えを3つに分けて学んでいきましょう。

1. ふたつの門 (マタイ 7 : 13-14, 21-23)

イエスはここで、私たちにはふたつの門が与えられていると言われます。

広い門と狭い門です。イエスは、狭い門から入りなさいとおっしゃいます。けれども、狭い門とは進むのが困難な道で、多くの人はその門を選びません。

まず尋ねるべき問いは、「狭い門とは何か」です。

簡単に答えると、それは「イエス」です。

ヨハネ 10 : 7-9

10:7 そこで、イエスはまた言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしは羊の門です。

10:8 わたしの前に来た者はみな、盗人で強盗です。羊は彼らの言うことを聞かなかったのです。

10:9 わたしは門です。だれでも、わたしを通過して入るなら、救われます。また安らかに出入りし、牧草を見つけます。

イエスはご自身を門と言われました。それは、イエスが永遠のいのちに通じる唯一の入口だからです。

ヨハネ 14 : 6

14:6 イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。

広い門について話をする前に、狭い門から入る犠牲についてちゃんと理解する必要があります。

21節で、イエスは、狭い門から入るとはどういうことか明確になさいます。

その門から入るとは、天の父に完全に従う覚悟を意味します。

22節は、クリスチャンだと言いながら狭い門から入っていない人への警告です。その人たちは、預言をしたり、イエスの名によって悪霊を追い出したり、イエスの名によって奇跡を起こしたりすることで、イエスとつながっていた人たちです。

けれども、彼らは、「神のみこころをおこなう」という狭い門から入ったことはありませんでした。

その人たちは、イエスとの一対一の関係を築いたことがない人たちです。狭い門から入っていないからです。

神のみことばを聞いて信じるのは良いことですが、それに何らかのかたちで自ら応答するまでは、信仰は死んでいるのです。

ヤコブ 2 : 14-26

2:14 私の兄弟たち。だれかが自分には信仰があると言っても、その人に行いがなければ、何の役に立ちましょう。そのような信仰がその人を救うことができるでしょうか。

2:15 もし、兄弟また姉妹のだれかが、着る物がなく、また、毎日の食べ物にもこと欠いているようなときに、

2:16 あなたがたのうちだれかが、その人たちに、「安心して行きなさい。暖かになり、十分に食べなさい」と言っても、もしからだに必要な物を与えないなら、何の役に立つでしょう。

2:17 それと同じように、信仰も、もし行いがなかったなら、それだけでは、死んだものです。

2:18 さらに、こう言う人もあるでしょう。「あなたは信仰を持っているが、私は行いを持っています。行いのないあなたの信仰を、私に見せてください。私は、行いによって、私の信仰をあなたに見せてあげます。」

2:19 あなたは、神はおひとりだと信じています。りっぱなことです。ですが、悪霊どももそう信じて、身震いしています。

2:20 ああ愚かな人よ。あなたは行いのない信仰がむなししいことを知りたいと思いませんか。

2:21 私たちの父アブラハムは、その子イサクを祭壇にささげたとき、行いによって義と認められたではありませんか。

2:22 あなたの見ておるとおり、彼の信仰は彼の行いとともに行ったのであり、信仰は行いによって全うされ、

2:23 そして、「アブラハムは神を信じ、その信仰が彼の義とみなされた」という聖書のことばが実現し、彼は神の友と呼ばれたのです。

2:24 人は行いによって義と認められるのであって、信仰だけによるのではないことがわかるでしょう。

2:25 同様に、遊女ラハブも、使者たちを招き入れ、別の道から送り出したため、その行いによって義と認められたではありませんか。

2:26 たましいを離れたからだは、死んだものであるのと同様に、行いのない信仰は、死んでいるのです。

変えられた心とは、神のみことばに従おうとする心です。

神のみことばに従うことが、心を変えられた証拠です。

次に問うべきことは、「広い門とは何か」です。

広い門は、狭い門から入りたくない人たちの選択です。

それは簡単な門です。自分で決めたこと以外、何も決まりや規制はありません。

自分がすべての判断基準です。

自分が正しいと感じる道を選ぶのです。

多くの人々が広い門を選びます。それは、誰もが好む生き方です。

広い門の唯一の問題は、そのたどり着く先です。

イエスは、広い門は滅びに至ると語ります。

英語のニューリビング訳聖書には、広い門は地獄に導くとあります。

「地獄」とはイエスを拒んだ人々のために用意された場所だと、聖書は教えます。

それは、永遠に創造主なる神から引き離され、罰せられることです。

永遠を過ごすにはつらい場所です。

その場所についての記述が聖書で最初に登場するのは、民数記 16 : 28-33 です。

民数記 16 : 28-33

16:28 モーセは言った。「私を遣わして、これらのしわざをさせたのは【主】であって、私自身の考えからではないことが、次のことによってあなたがたにわかるであろう。

16:29 もしこの者たちが、すべての人が死ぬように死に、すべての人の会う運命に彼らも会えば、私を遣わされたのは【主】ではない。

16:30 しかし、もし【主】がこれまでにないことを行われて、地がその口を開き、彼らと彼らに属する者たちとを、ことごとくのみこみ、彼らが生きながらよみに下るなら、あなたがたは、これらの者たちが【主】を侮ったことを知らなければならない。」

16:31 モーセがこれらのことばをみな言い終わるや、彼らの下の地面が割れた。

16:32 地はその口をあけて、彼らとその家族、またコラに属するすべての者と、すべての持ち物とをのみこんだ。

16:33 彼らとすべて彼らに属する者は、生きながら、よみに下り、地は彼らを包んでしまい、彼らは集会の中から滅び去った。

人々は、モーセを神との仲裁者として認めませんでした。

ルカ 16 : 19-31 を読むと、地獄の様子が少しわかります。

ルカ 16 : 19-31

16:19 ある金持ちがいた。いつも紫の衣や細布を着て、毎日ぜいたくに遊び暮らしていた。

16:20 ところが、その門前にラザロという全身おどきの貧しい人が寝ていて、

16:21 金持ちの食卓から落ちる物で腹を満たしたいと思っていた。犬もやって来ては、彼のおどきをなめていた。

16:22 さて、この貧しい人は死んで、御使いたちによってアブラハムのふところに連れて行かれた。金持ちも死んで葬られた。

16:23 その金持ちは、ハデスで苦しみながら目を上げると、アブラハムが、はるかかなたに見えた。しかも、そのふところにラザロが見えた。

16:24 彼は叫んで言った。『父アブラハムさま。私をあわれんでください。ラザロが指先を水に浸して私の舌を冷やすように、ラザロをよこしてください。私はこの炎の中で、苦しくてたまりません。』

16:25 アブラハムは言った。『子よ。思い出してみなさい。おまえは生きている間、良い物を受け、ラザロは生きている間、悪い物を受けていました。しかし、今ここで彼は慰められ、おまえは苦しみもだえているのです。』

16:26 そればかりでなく、私たちとおまえたちの間には、大きな淵があります。ここからそちらへ渡ろうとしても、渡れないし、そこからこちらへ越えて来ることができないのです。』

16:27 彼は言った。『父よ。ではお願いします。ラザロを私の父の家に送ってください。』

16:28 私には兄弟が五人ありますが、彼らまでこんな苦しみの場所に来ることのないように、よく言い聞かせてください。』

16:29 しかしアブラハムは言った。『彼らには、モーセと預言者がいます。その言うことを聞くべきです。』

16:30 彼は言った。『いいえ、父アブラハム。もし、だれかが死んだ者の中から彼らのところに行ったら、彼らは悔い改めるに違いありません。』

16:31 アブラハムは彼に言った。『もしモーセと預言者との教えに耳を傾けないのなら、たといだれかが死人の中から生き返っても、彼らは聞き入れはしない。』」

聖書には、「火の池」（黙示録 20 : 15）や「底知れぬ穴」（黙示録 9 : 1）など地獄を指す表現が他にもあります。

黙示録 20:15 いのちの書に名のしるされていない者はみな、この火の池に投げ込まれた。

黙示録 9:1 第五の御使いがラッパを吹き鳴らした。すると、私は一つの星が天から地上に落ちるのを見た。その星には底知れぬ穴を開くかぎが与えられた。

これほどひどい結末が待っているのに、なぜ多くの人が広い門を選ぶのでしょうか。

7章には、3つの答えが記されています。

ひとつめは、私たちが皆生まれながらにして悪いからです。

マタイ 7:11

7:11 してみると、あなたがたは、悪い者ではあっても、自分の子どもには良い物を与えることを知っているのです。とすれば、なおのこと、天におられるあなたがたの父が、どうして、求める者たちに良いものを下さらないことがありましょう。

ここでイエスが弟子たちに語っておられることを忘れないでください。

原罪の教理は、聖書の中でももっとも重要な教理です。

それが本当か確かめるのは簡単です。

子どもの様子を見ればわかります。

私には双子の孫がいますが、まだ2歳にもならないのに、おもちゃを奪い合っけんかします。

私の娘が子どもたちに良くないことをするように教えたわけではありません。

娘は正しいことをするように教えています。

では、孫たちはどこでけんかすることを覚えたのでしょうか。

そんなふうに振舞うのは、実際には教えられたからではなく、生まれ持った性質なのです。

多くの人々が狭い門ではなく広い門を選ぶふたつめの理由は、そのほうがずっと楽だからです。

自分の決めたルールに従って生き、自分の人生を思うままに生きるほうが簡単です。

やっていいことと悪いことについて誰かに命令されたいと思う人がいるのでしょうか。

人はたいてい楽な生き方を選びます。

自分自身で判断し、イエス・キリストの教えについてじゅうぶん考えるよりも、世間に迎合するほうがずっと楽です。

特に日本では、文化や家のしきたりに反することをしようと決心するのはたいへんなことです。

誰でも楽に生きたいと思います。

進化論は真実ではありませんが、それが偽りであると知るよりそのまま受け入れるほうが簡単です。偽りだと知るにはしっかり調べないといけないからです。

多くの人々が狭い門ではなく広い門を選ぶ3つめの理由は、広い門から入るように仕向ける偽教師がたくさんいるからです。

天国に行けて永遠のいのちを得られる簡単な方法があるなら、誰でもそうするでしょう。

21-23 節には、自分の教える道が天国への道だと教えた偽教師たちは皆、イエスに知らないと言われて失望すると語ります。

このような偽教師たちは自らを欺き、他人のことも欺きます。

偽りを信じ、その偽りを他の人たちにも教えて信じさせたのです。

なんと残念なことでしょう。パウロが偽教師たちを厳しく批判したのはそういうわけです。

私たちも、教会内の偽りの教えや誤った教えに厳しく立ち向かわなくてはなりません。

ソーシャルメディアでは「フェイクニュース」というものが存在します。

ネット上には誰でも動画やコメントを投稿でき、それが瞬時に世界中に拡散される可能性があります。

信頼できる団体や国営テレビ、ラジオ局などが公開したものでないものについては、十分に注意すべきです。

現代人はソーシャルメディアなどネット上の情報に感化されやすく、現代の偽教師の多くはネット上でその活動を広げています。

聖書やキリスト教についての誤った教えをとおして提供される広い門を、どうか選ばないでください。

2. ふたつの実 (マタイ 7:15-23)

この箇所を理解するカギは、20 節にあります。

7:20 こういうわけで、あなたがたは、実によって彼らを見分けることができるのです。

イエスは自然界から、たとえを語られます。実を実らせる木と雑草について語られます。国産りんごの56%は青森県で採れるそうです。

青森県のりんごはとてもみずみずしくておいしいりんごです。

そのようなりんごはりんごの木から採れるでしょうか。それとも、雑草やいばらから採れるでしょうか。

もちろん、りんごの木からりんごは採れます。

たくさんりんごをならせるためには、木にしっかり手間をかけて剪定しなくてはなりません。私たちの人生も同じことが言えます。

りんごの木にりんごの実がならないなら、何かがおかしいのです。

木が死んでいるか、その木がりんごの木でないかどちらかです。りんごの木にりんごがならない理由はそのふたつだけです。

私たちが本当にイエスの弟子で、狭い門から入ったのなら、その証が生き方に現れるはずだとイエスは言っておられるのです。

自分の考えではなく聖書の教えに基づいた選択をする、とか、聖霊の働きを示す品性が見える、などです。

ソーシャルメディアにフェイクニュースを拡散させることができても、変えられた心やよさをフェイクで取り繕うことはできません。

聖霊の実については、ガラテヤ5:22に記されています。

ガラテヤ 5 : 22-25

5:22 しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、

5:23 柔和、自制です。このようなものを禁ずる律法はありません。

5:24 キリスト・イエスにつく者は、自分の肉を、さまざまの情欲や欲望とともに、十字架につけてしまったのです。

5:25 もし私たちが御霊によって生きるのなら、御霊に導かれて、進もうではありませんか。

3. ふたつの土台 (マタイ 7 : 24-27)

イエスは24-27節で、ご自身の教えの主旨がちゃんと伝わるように、ある話をされます。この個所では24節を理解することがカギになります。

7:24 だから、わたしのこれらのことばを聞いてそれを行う者はみな、岩の上に自分の家を建てた賢い人に比べることができます。

イエスの教えに従うことは、岩の上に家を建てた賢い人のようです。

その家は、あらゆる自然災害に見舞われました。

風が吹き付け、雨が降って洪水になりました。

けれどもその家は倒れませんでした。岩の上に建てられていたからです。

イエスはここで、イエスを信じてイエスのみことばに従うなら、この世でどんな目に遭っても、永遠の終着地に影響はないと言っておられるのです。

パウロは、働きをなすうえであらゆる困難に遭ったとよく話しますが、自分のたどり着くべき永遠の行き先を決して見失いませんでした。

コリント第二 11 : 23-28

11:23 彼らはキリストのしもべですか。私は狂気したように言いますが、私は彼ら以上にそうなのです。私の労苦は彼らよりも多く、牢に入れられたことも多く、また、むち打たれたことは数えきれず、死に直面したこともしばしばでした。

11:24 ユダヤ人から三十九のむちを受けたことが五度、

11:25 むちで打たれたことが三度、石で打たれたことが一度、難船したことが三度あり、一昼夜、海上を漂ったこともあります。

11:26 幾度も旅をし、川の難、盗賊の難、同国民から受ける難、異邦人から受ける難、都市の難、荒野の難、海上の難、にせ兄弟の難に会い、

11:27 勞し苦しみ、たびたび眠られぬ夜を過ごし、飢え渴き、しばしば食べ物もなく、寒さに凍え、裸でいたこともありました。

11:28 このような外から来ることのほかに、日々私に押しかかるすべての教会への心づかいがあります。

皆さんの家は、どこに建てられていますか。つまり、今、あなたは誰に信仰と信頼をおいているのでしょうか。

自分と自分の考えを頼りにしていますか。それともイエスと聖書のみことばを信頼していますか。

それとも他の宗教を信じていますか。

偽りの教えを信じていませんか。

永遠の救いについて他のものを頼りにしているなら、その人は砂の上に家を建てた人のようだとイエスはおっしゃいました。

マタイ 7 : 26-27

7:26 また、わたしのこれらのことばを聞いてそれを行わない者はみな、砂の上に自分の家を建てた愚かな人に比べることができます。

7:27 雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけると、倒れてしまいました。しかもそれはひどい倒れ方でした。」

砂の上に自分の家を建てた人はどうなったでしょう。

雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹くと、その家は倒れてしまいました。

適用

イエスの説教の締めくくり部分から適用できる教えは明確です。

正しい終点にたどり着くためには、必ず狭い門から入らなければなりません。正しい終点とは、永遠のいのちを得て、死後に天国で過ごせることです。

狭い門からどうやって入ったらよいのか、とっておられるでしょうか。

狭い門から入るといふ選択について十分な情報を得たうえで決心するには、どんな基本情報が必要でしょう。

1. この世には唯一の神がおられ、その神は聖書とご自身の造られたこの世をとおしてご自身を現されることを知る必要があります。神の造られた世とは、自然界と全宇宙です。この神は完全に聖なるお方で、全能で偏在、すべてをご存知のお方です。
2. 神は私たちが神とかかわらせるために造られたことを知る必要があります。神は友となるために私たちが造られました。神は最初に男アダムを造られました。そして最初の女をアダムの助け手として造られました。神の前に等しく造られたふたりでしたが、その目的は異なりました。
3. 最初の人アダムの不従順によって、神は人類に死という罰を与えられたということも知る必要があります。死は、背きの罰です。人類はもはや永遠に生きることはありません。寿命が短くされました。
こうして、私たちはこの世に生まれ、罪深い行いのせいでしみながら生きています。そして死にます。正直に言えば、人生は目的のない無意味なものに感じます。
4. けれども良い知らせがあります。私たちの創造主なる神は、愛の神です。神は、ご自身の聖なるご性質を妥協することなく、被造物である人類を救いだす道を見つけなくてはなりませんでした。

その唯一の方法が、神の御子イエス・キリストをこの世に送り、私たちの罪の罰を負わせることでした。

そして、驚いたことに神はこれを実現されました。

処女の胎内に奇跡の種を置かれたのです。これは **2000** 年以上前のことです。

その種は育ち、人となりました。

その赤ちゃんが生まれたとき、人はその子をイエスと名付けました。救い主という意味です。

その子が **12** 歳になると、人々はイエスが他の人とは違うことに気づき始めます。

そして **30** 歳くらいになったとき、イエスのご自身が神の御子であると宣言され、それを証明するために多くの奇跡を起こされました。

水をワインに変え、死人をよみがえらせ、病人をいやし、目の見えない人の目を見えるようにし、他にも多くの奇跡をなされました。

そして自ら進んで十字架にかかられました。神は私たちの身代わりに御子を罰せられたのです。イエスは私たちの身代わりのいけにえでした。

5. 私たちの生死にかかわる真実の情報に基づいて行動を起こさないなら、情報自体に何の益もありません。今日、自分の生死について誰かと話してみませんか。聖書を自分で読んで学んでみませんか。ぜひ私たちにお手伝いさせてください。